



1400年前にタイムスリップ 田主丸町石垣で山王古墳群が発見

11月28日、田主丸町石垣にある山王古墳群第一次調査の現地説明会が開催されました。発見されたのは、6世紀後半から7世紀前半に造られた円墳。遺体を納める部屋が区画された複式構造の横穴式石室です。かめやつぼなどの須恵器も出土。地域の有力者が埋葬されていたと推測されています。参加した佐藤恭行さんは「九州の古墳をあちこち見に行っています。まさか地元から貴重な古墳が発見されるなんてうれしい限りです」と話しました。

参加者は、埋葬されていた人数や出土品、古墳の大きさを職員に尋ねていました

久留米餅を織る 竹野小で藍染め・機織り



苦戦しながら初めての機織りに挑戦。指導を受けながら丁寧に織りました

竹野小学校で11月26日、27日に6年生が餅の機織りを体験しました。図案の作成や柄として白く残す部分を麻糸でくる「手くびり」などを見ながら作業。完成した糸で織り、卒業記念の額布を完成させました。指導は久留米餅作家の松枝小夜子さんと長男の崇弘さんら4人が行いました。6年1組の鳥越風雅くんは「糸が絡まり難かったです。でも柄が徐々に完成していくのが楽しくて。ものづくりの大変さと面白さが分かりました」と話しました。

市政の動き

地域一丸で暴追を

12月1日、久留米シティプラザで暴力団壊滅市民総決起大会が開催されました。例年は2000人が集結していましたが、新型コロナウイルス対策で、規模を縮小し関係団体など48人で実施。大久保勉市長は「警察や行政、地域が連携を強めながら一体となって、根気強く続けることが大切。地域社会で孤立させることが暴力団の壊滅につながる」とあいさつしました。

◎安全安心推進課 ☎0942・30・9094、FAX0942・30・9706



「市民の安全安心を第一に対策します」と決意を述べる債権田久留米警察署長

市ホームページ「暴力団壊滅市民総決起大会の開催」へ
詳しくはQRコード

地域共生社会に向けた取り組み

13の視点

- ①つながりの構築
- ②見守り活動の推進
- ③誰もが集える場の拡充
- ④個別対応が必要な人への支援
- ⑤災害時要支援者への支援
- ⑥権利擁護の推進
- ⑦多機関連携の推進
- ⑧財源確保の推進
- ⑨地域における人材の育成
- ⑩コミュニティなどへの支援
- ⑪事業者などの地域貢献の促進
- ⑫福祉人材の養成と資質の向上
- ⑬福祉の理解を深める取り組み

市ホームページ「くろめ支え合うプラン」へ



詳しくはQRコード

シリーズ みんなで生きる みんなが活かす

進む取り組みから、地域共生社会実現の視点を考える

5 地域活動の担い手を確保



■江上憲一さん
「1日10人以上と会う。100歳まで活動する」などの目標を掲げ、iPad講座を開いたり、認知症サポーターになったりと幅広く精力的に活動。今年80歳。

後継者不足を実感。経験生かし人材発掘

江上憲一さんは認知症対策をはじめ18の団体に活動しています。中でも市民の地域デビューを後押しする「地域活動応援塾・くろめ」が活動の中心です。退職後、自治会活動に取り組む中で、役員などがなかなか交代できないという現実に直面。地域の後継者不足を実感しました。「会社員時代に人材育成を担当した経験から、良い組織はきちんと人材を育てていることを知っています。それが活動の原点」と話します。

江上さんは現役を引退した人の力を大切にします。「引退したばかりの人は人間関係に疲れている人も多い。でも仲間ができれば、素直にうれしい。誰かと常に触れ合うことで、知らないことにも出会えますし。そうした先に、行動が変わるのだと思います」。

100歳まで活動を。身近な地域で支え合いたい

9月18日に開催された応援塾のテーマは「オンラインを活用した居場所づくり」でした。オンラインを生かした市民活動に取り組む団体から講師を迎え、実践事例や各地域で広がる活動を紹介。「コロナ禍でほとんどの地域活動がストップ。新しい生活様式の中での居場所を考えると、オンラインは欠かせない」と江上さんは考えています。最近では、江上さんにiPad講座やZoom講座をやってほしいと校区からの相談が相次いでいます。「高齢者はどんどん行動範囲が狭くなり、人と会うことすら難しくなっていく。災害時の避難にしても時間がかかる。高齢者にこそITは必要なのです」。

幅広い分野で活躍する江上さんが描く活動の理想形は、意外にも身近な場所で小さく活動すること。「最終的にはそれが望ましいと、最近思うようになりました。誰でも年を取ると動ける範囲が狭くなるから、自分の住むエリアで小さな活動をする人が増えるのが理想だと思っています。そのためには、もっと担い手を発掘していかないと」。100歳まで地域活動することを目指す江上さん。20年後、仲間と進める活動が、人々をはじめ久留米にどのような変化をもたらすでしょうか。

◎地域福祉課 ☎0942・30・9175、FAX0942・30・9752



オンラインの居場所づくり講座。10人ほどの参加者の多くが高齢者でした



青峰校区では、高齢者を主な対象として「iPadで脳トレ」を開催



Zoom研修。基本操作からチャットなどの技術やマナーまで

新たな企業が進出

11月26日、アイ・シー・アールと久留米市が進出協定を締結しました。同社は国民健康保険料の収納など行政支援業務を請け負う企業。九州の拠点として、新たに市に九州業務センターを開設しました。今井重好社長は「久留米は立地と人材に恵まれています。サービス向上や雇用促進など市民の皆さんのために尽力します」と話しました。

◎企業誘致推進課 ☎0942・30・9135、FAX0942・30・9707



進出協定書へ署名する大久保勉市長（左）と今井社長

市ホームページ「アイ・シー・アールとの進出協定」へ
詳しくはQRコード